

1 改訂の基本的な考え方（改善事項）

- (1) 小学校社会科において育成を目指す資質・能力を三つの柱に沿って明確化するとともに、「社会的な見方・考え方」については、小学校社会科の特質を踏まえ、「社会的事象の見方・考え方」と言い換え、資質・能力全体に関わるものとして位置付ける方向で教科の目標の改善を図る。
- (2) 各学年の目標も、三つの柱に沿った資質・能力として整理・明確化する。その際、第3学年及び第4学年の目標と内容については、系統的、段階的に再整理する。また、地図帳の使用を第3学年から目標に示す。
- (3) 「社会的事象の見方・考え方」は、社会的事象の特色や意味などを考えたり、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断したりする際の「視点や方法（考え方）」であり、「位置や空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係に着目して社会的事象を捉え、比較・分類したり総合したり、地域の人々や国民の生活と関連付けたりすること」と整理する。
- (4) 内容について、中学校への接続・発展を視野に入れて、①地理的環境と人々の生活、②歴史と人々の生活、③現代社会の仕組みや働きと人々の生活、の三つに、また、①、②は空間的な広がりを念頭に、地域、日本、世界と、③は経済・産業、政治及び国際関係と、それぞれ区分して整理する方向で改善を図る。
- (5) 現代的な諸課題を踏まえる観点から、我が国や地方公共団体の政治の仕組みや働き、世界の国々との関わりに関心を高めるとともに、社会に見られる課題を把握して社会の発展を考える学習の充実を図る方向で改善を図る。また、持続可能な社会づくりの観点から、人口減少や地域の活性化、国土や防災安全に関する内容の充実を図るとともに、情報化による生活や産業の変化、産業における技術の向上などに関する内容についても充実する方向で改善を図る。
- (6) 社会との関わりを意識して学習の問題を追究・解決する学習の充実を図り、学習過程において「主体的・対話的で深い学び」が実現するよう指導方法の不断の見直し、改善を図る。

2 目標の改善

社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 地域や我が国の国土の地理的環境、現代社会の仕組みや働き、地域や我が国の歴史や伝統と文化を通して社会生活について理解するとともに、様々な資料や調査活動を通して情報を適切に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- (2) 社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考えたり、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断したりする力、考えたことや選択・判断したことを適切に表現する力を養う。
- (3) 社会的事象について、よりよい社会を考え主体的に問題解決しようとする態度を養うとともに、多角的な思考や理解を通して、地域社会に対する誇りと愛情、地域社会の一員としての自覚、我が国の国土と歴史に対する愛情、我が国の将来を担う国民としての自覚、世界の国々の人々と共に生きていくことの大切さについての自覚などを養う。

Point 柱書部分は、小学校及び中学校社会科の共通のねらいであり、社会科の指導を通して、その実現を目指す究極的なねらいを示している。小・中・高の接続や発展を意図して、学校種を超えた共通の文言を多く使用している。

3 学習内容の改善・充実

各学年の内容を、中学校で学ぶ内容との関連を考慮し、①地理的環境と人々の生活、②歴史と人々の生活、③現代社会の仕組みや働きと人々の生活に区分する観点及び第3学年と第4学年の目標と内容を分けて示す観点から、整理し直した。また、各学年の内容を「知識及び技能に関わる事項」と「思考力、判断力、表現力等に関わる事項」に分けて明確化した。

その上で、世界の国々との関わりや政治の働きへの関心を高めるよう教育内容を見直すとともに、自然災害時における地方公共団体の働きや地域の人々の工夫・努力等に関する指導の充実、少子高齢化等による地域社会の変化や情報化に伴う生活や産業の変化に関する教育内容を見直すなどの改善が図られた。

Point ①～③の区分については、「社会科の全体地図」として全体的な位置付けが示された。この内容をなぜ学ぶのかを明確にするとともに、そのつながりを意識することが大切である。全てを地理・歴史・公民に分けることが目的ではない。

4 学習指導の改善・充実

- (1) 社会的事象の見方・考え方を働かせた深い学びを目指すこと
小学校社会科における深い学びの鍵となる「社会的事象の見方・考え方」を働かせ、時間、空間、相互関係に着目して調べたり、考え表現したりすることが、社会的事象の特色や意味を考える「社会科らしい学びのプロセス」となり、確かな理解につながる。

Point 教師が教材や資料を準備する際に、上記の視点や方法に基づいて、問いを意識すること、また、地図や年表、統計などの各種の資料の選定や効果的な活用、学んだ事象相互の関係を整理する学習活動などを工夫することが大切である。

- (2) 説明したり議論したりする活動を工夫すること
考えたり判断したりしたことについて、論理的に説明したり、立場や根拠を明確にして議論したりすることなど、言語活動に関わる学習を一層重視することを求めている。

Point 学年の段階に応じて、生産者と消費者、情報の送り手と受け手など複数の立場から考えたり、よりよい社会の実現に向けて自分たちに協力できることを選択・判断したりしたことについて、資料などを活用し、根拠や理由を明確にして論理的に説明したり、他者の主張を踏まえて議論したりする活動を工夫することが大切である。